

近畿北部の弥生墓制

肥後 弘幸（京都府教育委員会）

1 はじめに

近畿北部は、旧国の丹後、但馬及び北丹波、兵庫丹波の地域にあたる。この地域はもとは、「タニハ」もしくは「タニワ」と呼ばれた地域で、丹後という国名は登場するのは、713（和銅6）年の丹波分国からである。分国以前の丹波の中心は丹後にあったようで、倭名類聚抄に記された丹波郡は現在の京丹後市峰山町及び大宮町にあたると推定される。この地域では非常に多くの墳墓が調査され、その変遷が明らかになっている。

2 多様な中期の墳墓

弥生時代前期末の墳墓が山の上から2つ見つかっている。前期末から中期初頭にかけての二重環濠をもつ高地性集落として著名な扇谷遺跡と谷を挟んだ丘陵上に七尾遺跡があり、2基の方形台状墓が検出された。豊岡市駄坂舟隠遺跡では、眼下に前期末から中期初頭の川原遺跡のある丘陵頂部から同時期の方形周溝墓8基が見つかっている。平地の少ないこの地域の特徴を示すのか台状墓と方形周溝墓という形態の差はあるものの丘陵の上に築かれたという共通点がある。

中期になると台状墓、方形周溝墓に加えて円形周溝墓及び方形貼石墓の4種類の墓が存在する（第1図）。中期中葉以降、墓域はいずれも集落に隣接して築かれている。京丹後市奈具・奈具岡遺跡群では、3つの居住域、2つの工房、2つの墓域そして水田域の関係が明らかになっている。2つの墓域は、いずれもムラの有力者の墓と考えられ、ムラ奥部にまず3基の20×10mの長方形台状墓（周溝墓）が営まれ、7人+7人+2人埋葬されている。その後、ムラの入り口には、2基の方形貼石墓が築かれるようだ（第2図）。舞鶴市志高遺跡では、中期中葉から居住域の西側に方形周溝墓群が営まれはじめ、中期の後葉も方形周溝墓は造営されるが、あわせてムラの東側に川を挟んで方形貼石墓群が営まれる。後期初頭になるとムラは小さくなり、墓域は丘陵の上に移動している（第3図）。

さまざまな墓制の中でその頂点にあるのが方形貼石墓である。近畿北部では、8遺跡13例を数えるが、拠点集落に伴う例が多い。日吉ヶ丘遺跡（第4図中）と寺岡遺跡（同左）の方形貼石墓は、同規模で長辺32m前後・短辺20m前後と弥生時代中期の墳墓としては全国的には吉野ヶ里北墳丘墓に次ぐ規模である。前者には埋葬施設1つのみが設けられ677点以上の碧玉管玉が出土した。後者には、大小3基の埋葬施設が営まれていた。

3 近畿北部の後期の墓制

方形貼石墓を頂点とした多様な墓制を持っていた近畿北部であるが、後期に入ると新たな「台状墓の墓制」が誕生している。近畿北部の中期の大きなムラはいずれも後期にまで続かず、後期の集落様相は明らかでない。一方、墓域は集落から離れ、山の上に営まれるがその様相は中期とは全く異なり、斉一性が高く近畿北部に広く分布する（第5図）。後期の墓制の特徴は、次の4つである。まず、第1は、居住域から離れた丘陵上に墳丘の区画の明瞭でない台状墓を築いていることである。第2の特徴は墳丘内に大小多数の埋葬施設があることである。付表は、後期前葉の墳墓群を抽出し、成人、若年、乳幼児の比率を求めたものである。各墳墓群で微妙に構成に違いがあるが、総数150の埋葬施設に対して、成人が71、小児・青年が17、乳幼児が41である。乳幼児の死亡率が高い未開社会としては、平均的な年齢構成と考えられ、親族墓と考えられる。第3の特徴は墓域内破碎土器供献と呼ばれる土器供献儀礼が徹底して実施されていることである。その分布範囲こそが近畿北部の勢力範囲であり、高槻市古曽部遺跡、福井市小羽山墳墓群、長岡市屋鋪塚遺跡など遠方にも知られる（第9図）。第4

の特徴はガラス勾玉・小玉などからなる装身具と鉄製武器・工具類を副葬することである。

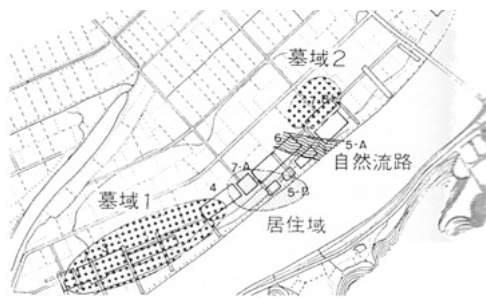
そしてこの墓制の中には、副葬品豊かな王墓の存在が明らかになっている。この墓制を始めた三坂神社3号墓（第6図）、ガラス釦・銅釦13・鉄剣11振りなど多数の副葬品をもつ大風呂南1号墓（第7図）、東西36、南北39m、高さ4mを測る巨大な方形墳丘を持つ赤坂今井墳墓（第8図）は、大陸との交易で栄えた近畿北部の歴代の王の墓と考えられる。



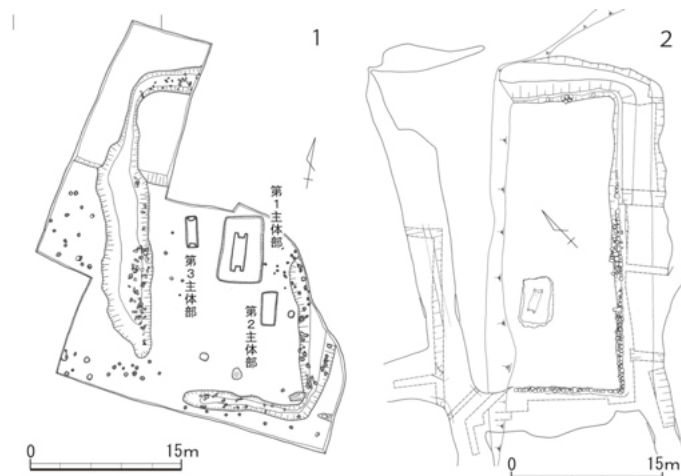
第1図 前期～中期のさまざまな墓制の分布



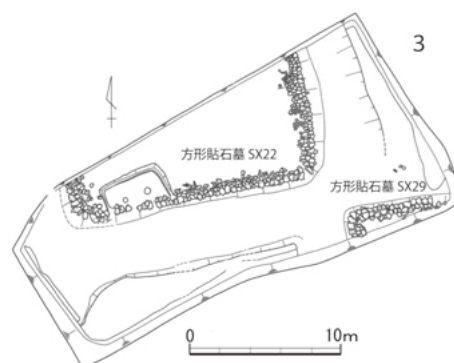
第2図 奈具・奈具岡遺跡群の集落構造



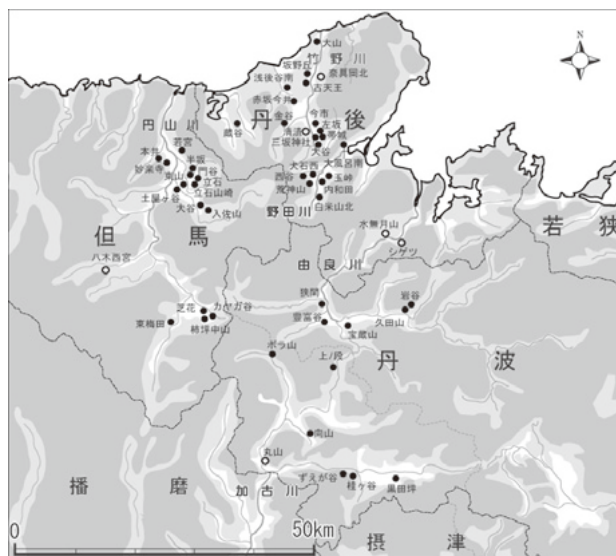
第3図 志高遺跡の居住域と墓域の変遷
上：中期中葉、中：中期後葉、下：後期初頭



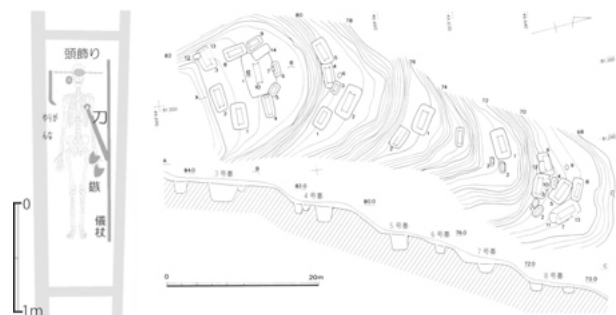
第4図 近畿北部の主要な方形貼石墓



1 寺岡遺跡 SX56 2 日吉ヶ丘遺跡 SZ01 3 難波野遺跡



第5図 近畿北部の弥生時代後期の墳墓

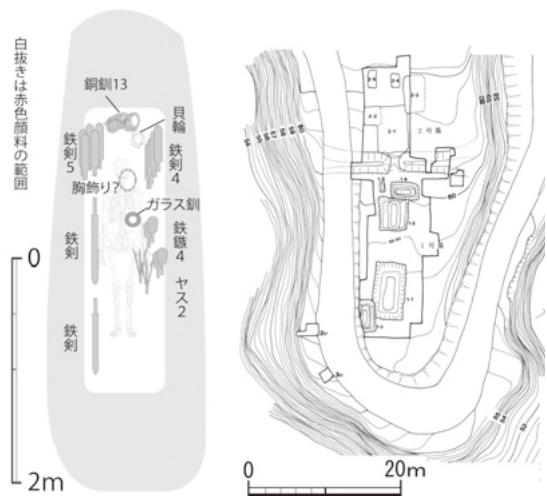


第6図 京丹後市三坂神社墳墓群と3号墓第10主体部

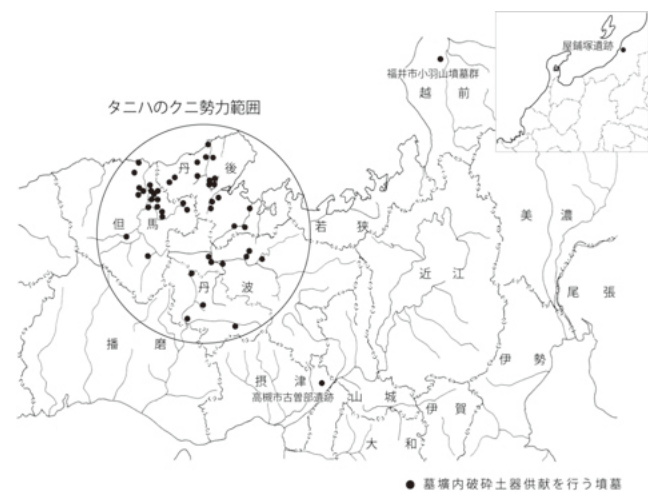
	乳幼児					小児・若年		成人		合計 埋葬施設数
	土器棺	土槨墓 (~1.2m)	木棺墓 (1.2~1.7m)	小計	割合	木棺墓 (1.2~1.7m)	割合	木棺墓 (1.7~2.8m)	割合	
三坂神社墳墓群	4	0	12	16	41%	5	13%	18	46%	39
左坂墳墓群	0	6	14	20	51%	2	5%	17	44%	39
今市墳墓群	1	0	11	12	38%	6	19%	14	43%	32
東山墳墓群	0	1	13	14	35%	4	10%	22	55%	40
合計	5	7	50	62	41%	17	11%	71	47%	150

備考 左坂墳墓群については、京都府教育委員会調査分のみを扱った。
東山墳墓群については、木棺規模を不明とする埋葬施設7期について、墓壙規模から木棺規模を想定した。

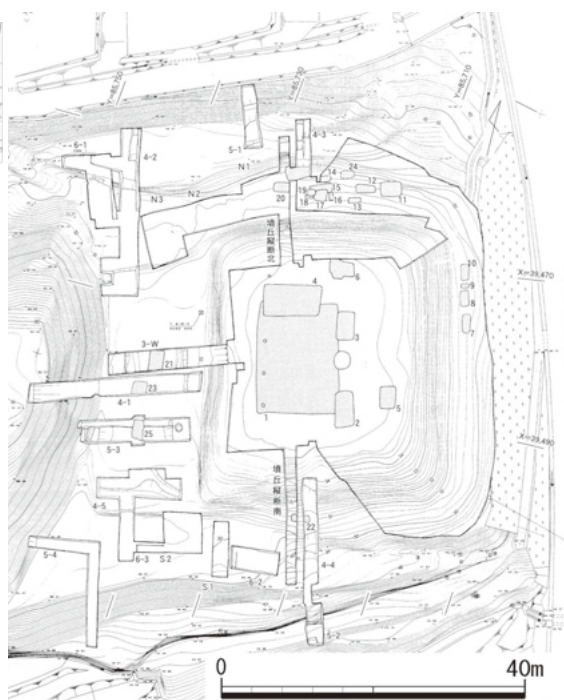
付表 近畿北部の主要な後期前葉の墳墓群の被葬者



第7図 与謝野町大風呂南墳墓群と1号墓第1主体部



第9図 墓壙内破碎土器供献をする後期の墳墓



第8図 京丹後市赤坂今井墳墓